



## 亀高で力をつける

校長 境田 俊之

17世紀はじめ、アメリカ大陸に渡った人々は、仲間に「あなたは何かができる人か?」と聞きながら、新しい集団生活の役割を決めました。ヨーロッパ社会で重んじられていた身分や学歴ではなく、ひとりひとりの能力を最大に発揮しようと考えたわけです。避雷針を発明したフランクリンもその中のひとりでした。印刷工として働いた後、格言やことわざを書いたカレンダーを作り、さらに新聞を発行して世界の情勢を伝えました。ラジオや電話がない時代ですので、彼の情報が開拓民を元気づけたことは言うまでもありません。その後は物理学や政治学など多くの分野で研究活動を行い、晩年は外交官として社会に貢献しました。

今、社会が大きく変わろうとしています。日本でも様々な場面で「あなたは何かができる人か?」と問われることが増えました。亀岡高校の「社会に通じる人を育てる」という目標には、新しい時代を見据えて、知識の習得だけではなく知識を活用する力を身につけてほしい、という願いが込められています。勉強は受験の時だけ取り組むものではなく、毎日、そして長く続けることが重要なのです。

「私は何ができるか」中学生の皆さん。亀岡高校で一緒に考えてみませんか。



## 社会で必要な力を

亀岡高校では、普通科(美術・工芸専攻除く)の1年生が、総合的な学習の時間「ジネリックススキル(注1)」のなかで、亀高Can-Doリスト(図参照)という行動指針を活用して、社会に通じる力を体系的に学んでいます。1年生はセルフデザインをテーマに、チームビルディング・プレゼン大会・思考力テストなど、未来を見据えて社会で必要な基礎力向上に取り組んでいます。

(注1) 社会の中あらゆる職業に就いても必要な力。



○ 学食の新規メニュー  
新しい学校食堂のメニューをグループで考える一学期の活動の様子です。採用されたメニューは学食で実際に商品となります。



○ 職業人インタビュー  
夏休みのあいだに身近な大人にインタビューをして、クラスメイトの前で発表している様子です。

	5級	4級	3級	2級	1級
<b>② 人とつはがる力</b> 	初対面の人にも、自分から話しかけることができる。  笑顔で人と接することができる。	ゆっくり、はっきり、大きな声でスピーチできる。  表情やあいづちななど態度で、好意的に話を聞くことができる。	調べたことや考えたことを、人に伝えるように(論理的に、熱意を持って)発表できる。  質問を通じて、会話を広げることができる。	自分と異なる集団(世代、地域等)に所属する人と、コミュニケーションできる。	多様な考え方や立場の人たちと議論を重ね、合意形成できる。
<b>③ 協働する力</b> 	チームにおける自分の役割を理解している。  学年やクラスなどが異なる相手とチームで活動ができる。	チームで活動している時に、自分の意見を主張できる。  自分と異なる意見を受け入れることができる。	チームに応じて、自分の役割を切り替えることができる。  相手の気持ちや立場を尊重して、人と協力することができる。	チームの状況や仲間の特性を把握して、助け合うことができる。	複数のチームで協力して、問題解決に取り組むことができる。

## Can-Do リスト 2.0 Kameoka high school Can-Do descriptors (部分)





2018.10.09~10.14



# 普通科 研修旅行



第二学年は10月8日から11日まで研修旅行に行きました。普通科は福岡県と長崎県壱岐に、数理科学科はグアムでそれぞれ貴重な体験をしました。普通科は壱岐と博多で班別研修を行い、また大刀洗平和記念館で平和学習を行いました。数理科学科は現地の高校で英語のプレゼンテーションを行ったり、マリンスポーツを楽しんだりしました。



# 数理科学科グアム研修旅行



## 今後の亀高スクールガイダンス

- 11月17日(土) 中学生対象美術実技講習会 ② (本校 東キャンパス)
- 12月 8日(土) 中学生対象美術実技講習会 ③ (本校 東キャンパス)
- 12月 8日(土) 数理科学科 体験授業 (本校 西キャンパス)
- 11月中旬 ~12月初旬 中学生・保護者対象 進路個別相談会